

Title	佐藤芳雄教授退任記念号にあたって (佐藤芳雄教授退任記念号)
Sub Title	
Author	黒田, 昌裕
Publisher	
Publication year	1996
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.38, No.6 (1996. 2) ,p.i-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-19960200-00685742

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

佐藤芳雄教授退任記念号にあたって

佐藤芳雄教授が本年3月をもって、慶應義塾を退職されることとなった。塾の定年年齢まであと数年残すこの時点で、敢えてこの4月より新設の豊橋創造大学学長として、新たな天地で後進の指導、教育、そして研究にあられることを決意されての退職である。毎年、この時期に何人かの先生方をお送りすることになり、寂しい想いをすることになる。この度先生の御退職のお申し出に接して、先生の学問の足跡と塾への数多くの貢献を改めて辿ってみると、ひとときわその想いを強くするのを禁じ得ない。

佐藤芳雄教授は、1956年に慶應義塾大学経済学部を御卒業の後、同大学経済学研究科に進学され、商学部の創設の翌年、1958年に商学部副手に就任されて以来のわれわれ商学部とのお付き合いである。同学部助手、助教授を経て、1972年には教授へと昇進された。まさに商学部創立の創世期から学部の歴史とともに研究、学事に携わってこられたということになる。この間商学部は、社会の変化とともに、いろいろな曲折を歩んで、今開化のときを迎えており、その御苦勞、御研鑽に改めて感謝と敬意を述べさせていただきたい。

佐藤教授は、1976年に慶應義塾より経済学博士の学位を受けられておりますが、その間40年にもわたる学究生活の間、一貫して中小企業問題、中小企業政策に関する経済学研究の分野で研鑽を積み重ねてきました。その分野で多大の業績を残されたことは、同じ分野の人達ばかりではなく、他分野の多くの人々も認めるところであります。とりわけ先生の分析の課題は、現代資本主義経済体制の中での寡占的大企業支配の構造との対比で、非寡占セクターとしての中小企業の役割の分析とその存立のための政策的課題に焦点があてられています。その主著「寡占体制と中小企業」は、1976年の当商学会研究叢書として刊行され、1985年には復刻されて、今もこの分野の基本的文献として高い評価を受けておりますことは改めて申上げるまでもない周知の事実であります。

先生の一貫した問題意識は、経済成長下の寡占的大企業支配体制のもとでの非寡占セクターとしての中小企業の行動図式の理論化という点にあるようにおもわれます。その理論化の方法は、あくまで実証主義的分析作法に則しており、中小企業の競争のメカニズムを現実の資料の理論的解明に根差して、頑固なまでに、その存立の基盤を探ることによって、ややもすれば感情的な議論に陥りやすい中小企業問題を科学的に煮詰めていこうとするところにあります。21世紀を迎えるにあたって、我が国経済が種々の意味で転換の時期にきている今、先生の問題の着眼と分析方法は、改めて

われわれに大きな示唆を与えてくれます。先生の学風は、中小企業問題という個別課題を越えて、慶應義塾商学部の学問研究の良き伝統を築かれたといっても過言ではありません。学問としては、あくまで正攻法のやり方ではあるけれども、それだけに常人のなしえない道といえます。

こうした先生の学問への姿勢は、学外の種々の公職の場でも社会的に大きな貢献となって表れております。近年においても、東京商工会議所の中小企業問題などの各種研究会の座長として活躍されており、昨年より日本中小企業学会会長、日本経済政策学会副会長の要職につかれています。先生の誠実かつ円満な御人柄もあって、多くの塾内外の後進にとって、欠くことのできない存在となっているものといえます。申す迄もなく、先生の塾、そして商学部への御貢献は、研究・教育に留まりません。1977年から83年までの就職部長、1985年から4か年の塾常任理事としての御功績は、行政面でも大学教育の体制作りに大きく貢献されたことを物語っています。

この4月からの豊橋創造大学では、大学学長として、21世紀へむけての新しい大学教育の構築に挑戦されます。まさに新しい大学名にあるように、創造的活力に満ちた若者を育成していくことが、いまの社会にもっとも重要なわれわれに課された課題であります。その大きな、そしてもっとも重要な課題に、果敢に挑戦される先生に敬意を表しつつ、先生のますますの御健勝と御研究の御発展をお祈りして、退任記念号の御挨拶に代えさせていただきます。

平成8年2月

商学部長 黒田昌裕